

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等克服研究事業(腎疾患対策研究事業)

かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する

慢性腎臓病患者の重症化予防のための

診療システムの有用性を検討する研究

平成24年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 山縣 邦弘

平成25 (2013) 年 3月

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（腎疾患対策研究事業））  
分担研究報告書

かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する  
慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究

研究分担者 成田 一衛 新潟大学医歯学系 腎・膠原病内科 教授

研究協力者 丸山 弘樹 新潟大学医歯学系 腎医学医療センター 特任教授

後藤 眞 新潟大学医歯学系 腎・膠原病内科 講師

研究要旨：新潟県では3カ所の地区医師会と、37名のかかりつけ医、専門医24名の体制で本研究に参加している。うち、新潟市医師会および、北蒲原・新発田市医師会は介入A群に割り付けられ、刈羽群・柏崎市医師会はB群となっている。慢性腎臓病（CKD）患者の登録数はそれぞれ、92名、34名、39名であった。

一方、平成24年度内に、FROM-Jの地区説明会以外に、一般市民向けの啓発活動を精力的に展開した。CKDの早期発見、予防、ならびに治療に関する市民公開セミナーを計3回県内および山形県で開催し、のべ672名の一般市民が参加した。各地域の内科医、管理栄養士、薬剤師、看護師、保健師が協力し、それぞれの立場から分かりやすい講演や寸劇を行い、一般市民の慢性腎臓病と関連する病気、その予防法、治療法に対する理解を深めることができた。また同時に、これらの活動を通じて、それぞれの地域における医療関係者側の慢性腎臓病に対する協力体制の充実と、対策への意欲の向上に寄与することができた。

#### A. 研究目的

慢性腎臓病（CKD）の重症化を防ぐためには、CKD患者の診療過程における腎臓専門医と非専門医との連携を強化・補助するとともに、管理栄養士をはじめとする多職種からの介入が必要である。本分担研究は、その目的で行われている腎疾患重症化予防のための戦略研究（FROM-J）の一地区として活動し、本研究の推進に寄与するとともに、CKDの早期発見と早期介入に関する一般市民に対する啓発活動を展開することである。

#### B. 研究方法

新潟県内では新潟市、新発田北蒲原、および刈羽郡・柏崎市の3ヶ所の都市医師会が本研究に参加している。これらのうち、刈羽郡・柏崎市医師会が介入B群に割り付けられ、他の2医師会は介入A群となった。登録されたCKD患者は新潟市で92名、新発田北蒲原で34名、刈羽郡・柏崎市で39名である。平成24年度、このFROM-Jの地区説明会を2回開催した。

また、一般市民を対象としたCKDの早期発見と治療に関する啓発を目的としたセミナーを、合計3回開催した。

#### C. 研究結果

腎臓専門医の他に各地域の内科医、管理栄養士、薬剤師、看護師、理学療法士、保健師がそれぞれの立場から分かりやすい講義や寸

劇をおこなうことにより、一般市民の腎臓病に対する理解を広めることができた。それぞれの概要、参加者数を下記に示す。

- 平成24年9月2日 第4回市民公開セミナーin村上・岩船 「あなたの腎臓だいじょうぶ？」村上市教育情報センター 来場者数：173名
- 平成24年10月21日第6回新潟大学信楽園病院 合同市民公開CKDセミナー「天地腎」新潟ユニゾンプラザ 来場者数：358名
- 平成24年9月30日市民公開セミナー「鶴岡天腎祭」出羽庄内国際村ホール 来場者数：131名

#### D. 考察

この活動を通じて、それぞれの地域における医療関係者側のCKDに対する理解の向上と、対策へのモチベーションの向上に寄与することができた。関連する多業種間の協力体制の充実にも繋がった。

#### E. 結論

本研究の推進と地域の啓発活動を進めることを通じて、わが国のCKD対策に貢献できる。

#### F. 研究発表

1. 論文発表、学会発表 なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況 特になし